



あずまの

令和5年10月30日
横浜市立東野中学校
学校だより
校長 伊藤 邦彦

合唱コンクール（10月16日）を終えて

校長 伊藤 邦彦

朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じる季節となりました。学校の木々も少しずつではありますが色づいてきているようです。

今年の秋は中国の杭州で行われたアジアのスポーツの祭典、アジア大会が行われました。日本は若手選手の活躍が目立ち、188個のメダルを獲得したようです。次回のアジア大会は3年後に愛知県で開催されるようです。本校関係者が出場できるとよいですね。

10月16日(月)に大和市文化創造拠点シリウスの芸術文化ホール(メインホール)にて合唱コンクールを行いました。コロナの影響で各学級が課題曲と自由曲の2曲を披露するのは3年ぶりとなりました。どのクラスも朝・昼・帰りに練習に励み、学校の様々な場所で歌声が響き渡っていました。そのような中、インフルエンザが例年より早く流行して1年生は学年閉鎖、2・3年生は感染拡大防止のため合唱練習中止となり、思うような活動ができずに限られた時間での発表となってしまいました。本番での仕上がりが心配でしたが、どのクラスも少ない練習時間とは思えない素晴らしい発表でした。当日ご参観いただきました保護者の皆様、ご多用の中ありがとうございました。多くの方々にご参加いただきたいのですが、会場の都合で保護者1名・当該学年のみの参観となることをご理解ください。

さて、東野中学校は昭和49年(1974年)4月1日に開校し、令和5年(2023年)に創立50年目を迎えました。今後の発展を願うことを目的に、生徒・保護者・地域とともに東野中学校の節目を祝いたいと考えています。そこで、本年度は地域・元PTA・現PTAの方々にご協力いただき、創立50周年記念準備委員会を立ち上げます。準備委員の方々を紹介させていただきます。

令和5年度	準備委員氏名	
相談役	大柴(第4地区連合自治会長)、木村(相沢町内連合会長)、大坪(細谷戸連合町内会長)	
顧問	伊藤 邦彦(校長)	志水 隆一(PTA会長)
委員長	露木 晴雄(元PTA会長)	
副委員長	丸山 麻衣(PTA副会長)	山崎 恵美(PTA副会長)
総務	矢羽田 将史(生徒指導専任)	渡邊 稔(教務主任)
書記	向山 亜由美(PTA書記)	浅野 左希子(PTA広報委員長)
会計	中畝 洋平(副校長)	和田 美絵(PTA会計)

合唱コンクール実行委員長より

合唱コンクールお疲れ様でした。8月末から本格的に始まった合唱練習。今年度は例年通りの開催となりましたが、課題曲と自由曲、2曲の両立はとても難しかったと思います。ですがそんなことすらも感じさせない各クラスの堂々とした合唱は聞いている側にも歌っている側にも「何か」を感じさせる合唱だったのではないのでしょうか。私はその中で『色』があったのではないかと思います。これは私が感じたことなのですが例えば一年生の学年合唱であれば「明るく元気で勇気づけられる合唱」、二年生は「懐かしく、澄み切った合唱」、そして三年生は「力強くもどこか静けさもある合唱」などと『色』もそうですが雰囲気のある合唱だったと思います。さて、一年生は初めての合唱コンクール。二年生は2度目、三年生は最後の合唱コンクールでした。みなさんはステージ上で得たものはありますか？その得たものを合唱だけでなく、日々の学校生活で活かせることが一番だと思います。

合唱コンクール実行委員長 3年3組 女子生徒





作文コンテストで瀬谷区長賞を受賞

第73回社会を明るくする運動

第28回瀬谷区中学生作文コンテスト2023

瀬谷区長賞 「そうじ活動と近所との関わり」 東野中学校 二年 女子生徒

わたしは、ふだんから毎月第一日曜日にある、団地のそうじにできるだけ参加するようにしている。

きっかけは、小学生のころに親に行ってきたさい、と言われたからだった。当時は、面倒くさがりだった自分は、毎月連れていかれるそうじが嫌いであった。早く起きなければいけないし、わざわざそうじをするために、外へ出るのは嫌だったからだ。

そんな風に思いながらも、そうじをしていると、一緒にそうじをしているおじいさんやおばさんに『いつもありがとうねえ』といわれることや「えらいね」と言ってもらえることが増えた。それを聞くとわたしは、とても嬉しい気持ちになった。そうじを行うことは、あいさつをし合い、地域の人とコミュニケーションをとりあえる機会だとわたしは思った。それから、わたしは弟や妹を連れ、自分からそうじに参加するようになった。弟たちは嫌がるかなと思ったが自分が思っていたよりも楽しそうで、周りの人も笑顔だった。わたしは、それがすごく嬉しく、楽しくそうじに参加できた。

もう、何年もやっているが、気付いたことがあった。それは、そうじや地域の行事を中心にしているのは、ほとんどが高齢な人ばかりなことだ。ふだん季節に応じて開かれる行事も、若い人たちが中心になっていることは少なく、最近は近くでやっていたお祭りが無くなってしまった程だ。小学生などが多く住んでいて、行事が少なくなったことに悲しんでいる人が多かった。

ある日、そうじ後の集会で、「〇号室に住んでいるあの人が、最近は来てないね。」などと話していた。その後、だれが参加しているのか、分かるような取り組みが実施された。しかし半年後、その取り組みはあまり意味がなく、特定の人に参加できていないということが分かり、廃止された。わたしのとなりの家に住んでいる人の家に、近所の人々が訪問したが出て来なく、朝から仕事があるそうだった。住んでいる若い人のほとんどは、そのような理由だった。

月に一回だけのそうじでも、雑草やかれ葉などの入ったごみ袋が沢山でている。もし、住んでいる人全員がそうじを行わなくなった場合、わたしたちの住んでいるまわりは、どんどん汚れて、住み良い地域ではなくなってしまう。それに、地域の人と関わるのがほとんどなくなってしまう。家の周りや団地の玄関がきれいなのは、いつもそうじがあるおかげだ。まだ、大人に対して自分の意見を伝えることは難しく、勇気がとても必要になるけれど、自治会の活動、そうじ活動に参加してみるなど小さなことでも自分たちにできることをみんなでやれば上手くいくとわたしは考える。

地域の活動では、小さな祭りや火の用心の声かけ、プール、かるたなどと沢山の子どもたちが楽しめるような取り組みが行われている。わたしは小さいころからこの地域に住んでいて、そのような取り組みにはとてもお世話になっているのである。だからこそ、その地域での行事がなくなってしまうと言うことを何か解決することができないかとわたしは考えた。

そこでまずはそうじ活動だ。他のいつもそうじをしてくれている人からすると、それはあたり前だと思うかもしれない。けれど、それはわたしにとっては大事なことだと思っている。理由は、そうじを住んでいる人全員で行う事で、近所との仲が深まる、地域はきれいに保たれる。一石二鳥だからだ。わたしがただ参加するだけでは、今までと意味は変わらない。しかし、大変そうなそうじを自ら手伝いに行ったり、となりの家の人や同じ階の人に声かけをしたりして、自分のできることを増やしていきたい。他にも、自分のできることはあるのだろうかと考え、すこし前に母に相談を試みた。話してみると、「知り合いの元会長の人に言ってみたら。」と言われた。話してみると、「地域での行事では、たくさんの人に来てほしいな。」と言っていた。それを聞いて結局は出来ることがなかったが、もう少し大きくなって、自分が約に立てるようになったら、地域の活動のホームページを作ったり、地域の良い所をまとめてポスターをけいじ板にはったりしてこの地域での活動を広めていきたいと思う。

このように、だれもが過ごしやすい、安心な地域をつくっていくには、地域の近所の人との関わりが大切だと思う。だから、わたしは地域のそうじ活動へ参加しているのだ。

